

### 5. 単純 X-P にて発見された心膜腫瘍の1例

井関治和, 萱場祐司, 須甲陽二郎  
田村隆司, 井上雅裕, 下浦敬長  
(東部地域病院)

患者は62才男性である。胸部 X-P にて縦隔異常陰影を認め精査したところ径4×2 cmの表面石灰化を認める楕円形の腫瘍が右室を圧排していた。心臓カテーテル検査では冠動脈からの feeding artery を認めなかった。当日、手術標本提示予定である。

### 6. 当院で経験した supernormal conduction を認めた concealed type WPW syndrome の1例

萱場祐司, 井関治和, 須甲陽二郎  
田村隆司, 井上雅裕, 下浦敬長  
(東部地域病院)

46才男性。6年前より動悸発作を自覚。近医にてPSVTと診断され内服療養を受けていた。平成9年に入り発作が頻発したため当科紹介された。臨床電気生理学的検査で supernormal conduction を有する concealed type WPW syndrome と診断され高周波カテーテルアブレーションを施行した。

### 7. 感染性心内膜炎の1例

野本清志, 神戸正樹, 水口公彦  
市川 崇 (国立習志野)

患者は、66歳男性。高血圧にて近医通院中であつたが、平成9年7月下旬より、微熱全身倦怠感出現。7月31日、近医にて X-P 施行。心不全と診断され利尿剤、強心剤を投与されるも軽快せず。8月14日、当院紹介入院となった。胸部 X-P 上、肺うっ血、心エコー上、大動脈弁閉鎖不全、僧帽弁閉鎖不全、僧帽弁への疣贅の付着を認め、また、血培にて streptococcus mitis 検出。心不全を伴う感染性心内膜炎と診断した。ペニシリン G2000万単位/日×28日投与、及び、利尿剤投与にて症状焼失。疣贅は縮小傾向にあつたが消失しなかった。10月17日、退院。海浜病院にて手術施行となった。

### 8. ワーファリンにより血栓消失をみた、急性膵炎を合併した下大静脈血栓症の1例

天野 豊, 寺本清美, 青柳 裕  
(国保成東)

症例は50歳男性。3週間ほど続く微熱と5 kgの体重減少および、背部痛を主訴として入院した。胸部レン

トゲンにて両側宗水貯留を認め、また血清アミラーゼ値の高値と腹部の超音波と CT にて膵頭部の腫瘍と膵管拡張および下大静脈内の壁血栓と内腔の狭小下を認めた。急性膵炎とそれに伴う下大静脈血栓症と診断し、メシル酸ガベキサート、ウリナスタチン等の投与により治療を開始した。投与後、血清アミラーゼ値は遷延しながらも次第に低下し、膵炎は鎮静化した。しかし下大静脈内の血栓は変化しなかった。ワーファリンの経口を開始し、投与後約2ヶ月後の造影 CT にて血栓の消失を確認した。また、血清アミラーゼ値も正常化し、現在外来にて経過観察中である。

### 9. Hypereosinophilic syndrome に合併した急性下肢静脈血栓症の1例

酒井芳昭, 増田真一, 青墳信之  
寺野 隆, 平井 昭 (千葉市立)

末梢血好酸球が長期間著増すると、特徴的かつ重篤な臓器損害が生じることがあるが、好酸球増加症候群(HES)に急性下肢静脈血栓症を合併した症例を経験したので報告する。症例は50才男性。1997/6/3頃より腹痛、下痢、血便あり血液データ上白血球及び好酸球の増多を認めた。6月末には左下肢の浮腫、痛みが出現するとともに好酸球増多、血小板減少をきたす。既往歴、家族歴特記事項なし。7/10入院時 WBC38500 (Eo64%) のうえ基礎疾患なく、HESの診断、またDIC (Ptt1.2万, EDP160)、左下肢静脈血栓症を合併していた。HESに対してプレドニンを60mgより使用し好酸球は急激に減少、血小板の減少もワーファリンを併用することにより改善得られた。閉塞静脈血栓は徐々に溶解していったが腸骨静脈付近では再疎通するも十分な開存は得られなかった。HESに合併症として稀な下肢静脈血栓症を併発した症例を経験したので報告する。

### 10. 大動脈炎症候群による異型大動脈縮窄に対し、腋下一大動脈バイパス術を施行した1例

木ノ下敬彦, 村山 紘 (松戸市立)

症例：55歳女性。主訴：高血圧。昭和55年より高血圧で近医受診していたが、コントロール悪化のため平成8年1月に当院紹介された。血圧の左右上下差が存在し、頸部血管雑音を聴取することから大動脈炎症候群を疑った。平成8年11年心不全にて入院。心不全軽快後に心臓カテーテル血管造影検査を施行した。大動脈造影にて弓部から腎動脈下にかけて瀰漫性に高度狭窄を認め、圧所見では大動脈の狭窄部位をはさんで90 mmHg の圧較差があつた。以上より、大動脈炎症候群による下行大動脈の狭窄(異型大動脈縮窄)のため上半身の高血圧を来しているものと考え、降圧目的に腋下一